

## 大山 恭子<KOKO>： アルゼンチン・タンゴヴァイオリン奏者

二歳よりヴァイオリンをはじめ、桐朋学園子供のための音楽教室を経て桐朋学園に進学。同中退後、洗足学園にて作曲を学ぶ。ヴァイオリンを篠崎弘嗣、シュタフォン・ハーゲン、ジャンヌ・イスナール、ルイ・グレーラーの各氏に師事。作曲を原博氏、指揮を遠藤雅古氏に師事。桐朋学園時代に齊藤秀雄氏の勧めにより ヴィオラも学ぶ。昭和 42 年度神奈川県主催国際音楽コンクールにて特賞と奨励賞を受賞。

東京ユースシンフォニーオーケストラのコンサートマスターを勤めた後 ソリストとなり、オーケストラと協奏曲の共演、多くのピアニストとデュオを組んでソナタを共演するほか、ソロリサイタルを各地で開催。平成 8 年よりポピュラー、ジャズ、歌謡曲にもレパートリーを広げ、平成 11 年より音楽療法の一環として各地の老人ホーム、医療施設での演奏活動を開始。

平成 13 年よりアルゼンチン・タンゴ・ダンスを始め、シンゴ&アスカに師事。平成 14 年、タンゴのヴァイオリン、ヴィオラ奏者としてデビュー。平成 21 年、アルゼンチンに短期留学してダンスと音楽を研修。

現在は、KOKO y TANGO COMPAN~ERO (タンゴユニット) として各地で演奏活動を行いタンゴの普及に努めるほか、様々なジャンルの演奏家と共演。

年二回、KOKO STUDIO LIVE を行うほか、多数イベント、ライブハウスに出演している。



## 田辺 義博： バンドネオン奏者

新潟市生まれ、東京で育つ。バンドネオン奏者、ギタリスト。作編曲家。

日本大学在学中、ヤマハ・ネム音楽院に入学しジャズ・ギターを学ぶ。その後、オスバルド・プグリエーセとアストル・ピアソラの音楽を知り、タンゴとバンドネオンに傾倒する。1989～1991年にかけてブエノス・アイレスに滞在、アルトゥーロ・ペノンとダニエル・ビネリに師事し、バンドネオンの基礎を学ぶ。

1993年、ブエノス・アイレスにて自主CD制作。1997年プグリエーセ追悼コンサートのためブエノス・アイレス市立アルベアール劇場に出演。

帰国後はタンゴ生演奏とアルゼンチン料理の店カンデラリアのハウス・バンドネオン奏者ルーベン・イダルゴに師事、その後、カンデラリアに定期出演。2005年にはブエノス・アイレスにてフリオ・パネに師事するほか、カサ・デル・タンゴで演奏。2007年、自主制作CD「エスタモス・アキ」を録音。現在はタンゴ・バンド「エスタモス・アキ（我々はこちらに居る）」主宰し都内近県にて活動する他、バンドネオンの基本奏法の指導にもあたっている。

